

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
日本国憲法		こども保育学科／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	福田 稔
授 業 の 概 要				
日本国憲法全体の主要事項（国民主権・平和主義・基本的人権尊重・統合機構）の意味内容を体系的に理解しながら、そこで取り上げられる政治的・憲法的課題について自ら考える学習を行う。また、憲法が求める理念と現実社会との間にどのようなギャップがあるかを見つめながら、憲法問題に対する国民としてのリーガルマインドを養う。				
授業終了時の到達目標				
・新聞や映画など学生に身近な、憲法と関連のある題材を取り上げ、何が問題となっているのかについてグループワークを行い、さまざまな考え方があることを体験し、各自が考察するための軸のひとつを獲得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
日頃からニュースや新聞に目を通し、社会の動きをみる。				
回	テ ー マ		内 容	
1	憲法と立法主義		憲法とは何か、憲法の意味や特質などを学ぶ。	
2	日本国憲法の構成と基本原理		日本国憲法制定の歴史、日本国憲法の前文、本文の構成について学ぶ。	
3	平和主義		日本国憲法の平和主義、憲法第9条の解釈と運用について学ぶ。	
4	基本的人権		人権の尊重、日本国憲法における人権の体系について学ぶ。	
5	包括的人権と法の下での平等		日本国憲法第13条の法的性格、生命・自由・幸福追求」権について学ぶ。	
6	精神・身体に関する自由権		思想・良心の自由、身体に関する自由について学ぶ。	
7	社会権		日本国憲法第25条の規定、生存権の法的性格を学ぶ。	
8	国民の基本的義務		日本国憲法に定める国民の3大義務について学ぶ。	
9	国会と立法権		国会の地位と性格や「国権の最高機関」、「唯一の立法機関」の意味について学ぶ。	
10	内閣と行政権		内閣に帰属する行政権、議院内閣制につて学ぶ。	
11	裁判所と司法権		司法権の観念、司法権の範囲、更に日本国憲法における司法権の観念について学ぶ。	
12	財政		財政立憲主義の原則、租税法律主義について学び、我々の生活と税金の関わりについて学ぶ。	
13	地方自治		日本国憲法第92条に定める地方自治の意義、また地方自治の性質について学ぶ。	
14	憲法改正について		憲法改正の手続きを学ぶ中で時事問題に触れる。	
15	日本国憲法全体について1		国民生活の中での日本国憲法との関わりを考察する。	

回	テ ー マ	内 容		
16	日本国憲法全体について2	日本国憲法改正についての討論		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
日本国憲法		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認試験60% 授業態度40%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報処理入門Ⅰ		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	越智 悦子
授 業 の 概 要				
近年、幼稚園や保育園でも情報機器が盛んに導入されるようになってきた。そこで、本科目は、パソコンの仕組みや歴史など基本的なことを学習する。また、ワープロソフトのWordや表計算のExcelなどを学習することにより、就職現場において効率的な業務を行えるようにする。				
授業終了時の到達目標				
パソコンの基本的作業が行える。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	穴吹キャリアアップスクール・穴吹カレッジサービス（パソコン指導：20年） eとぴあかがわ（パソコン指導：10年）、香川大学（パソコン指導：6年）			
時間外に必要な学修				
授業内容の予習、教材作成				
回	テ ー マ		内 容	
1	PCの基本操作		USBの使い方 エクスプローラーでデータの確認、Windowsの操作	
2	入力練習		入力練習	
3	word		文章を作成する	
4	"		画像を挿入・編集する	
5	"		お知らせ文を作成する	
6	word excel		お知らせ文を作成する、ビジネス文書の書き方 データ入力	
7	excel		数式の入力、関数の入力、書式を設定する	
8	excel		数式（相対参照・絶対参照） コピー・ページ設定	
9～ 11	excel word power point		予定表作成 案内文作成 スライドの作成	
12～ 16	power point		スライドショーの作成 班ごとに発表用のスライドショーを作成（1年間の行事）	
教科書・教材			評価基準	評価率
情報処理入門Ⅰ 情報リテラシー入門編			総合評価	100.0%
				【採点の内訳】
				授業態度 10%
				提出課題 50%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報処理入門Ⅱ		こども保育学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	越智 悦子
授 業 の 概 要				
パソコンの基本的な活用を習得した上で、さらに実践的な技術身につけることを目的とした科目。 具体的にはパワーポイントを学び、効果的なプレゼンテーションを身につける。また、絵本や紙芝居を パワーポイントを使用し、動く絵本や紙芝居を作成し発表することで、パワーポイントの使用に慣れ る。他にも、ワードを使用し、絵合わせなど保育に活かせる教材づくりを行う。				
授業終了時の到達目標				
パワーポイントの習得。 W e b 活用の際のマナーについて学ぶ。 紙芝居、絵合わせカード作成				
実務経験有無		実務経験内容		
有		穴吹キャリアアップスクール・穴吹カレッジサービス（パソコン指導：20年） eとぴあかがわ（パソコン指導：10年）、香川大学（パソコン指導：6年）		
時間外に必要な学修				
1年次に学習した基本的な操作について再度勉強しておく				
回	テ ー マ		内 容	
1	パワーポイントとは		パワーポイントの概要と使用について	
2～ 7	絵本・紙芝居作成		絵本を選び、どのように見せるのか構想をねる。 実際に作成を行う。	
8～ 13	絵合わせ作成		グループで分担し、内容を考え作成していく。	
14～ 15	絵本・紙芝居発表 絵合わせ遊び		一人ずつ作成したものを発表する。 保育者と子どもに分かれて実際に作成したものを使用し、 遊ぶ。 最後に振り返りを行い、活かせるよう考える。	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 40% 発表 40% 提出物 20% 授業態度

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅰ		こども保育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
働くとはどのようなことなのかをベースにライフサイクルと仕事について考えていく。また、社会人としての一般常識として次の内容を中心に授業を行う。 ①ビジネスマナーの基本。②就業中のマナー。③指示の受け方と報告・連絡・相談。④話し方の基本。⑤敬語の使い方。⑥会議への参加。⑦電話対応。⑧来客対応と面談基本マナー。⑨仕事とIT。⑩ビジネス文書の基本。				
授業終了時の到達目標				
就職活動に必要な考え方やスキルはもちろん、社会で活躍するライフスキルも身につく。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
将来目指す職種を絞れるように、研究を行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション		授業スタイルの説明（動画での予習が前提となる） グループ分け（4～5人）とグループ内で自己紹介	
2	「就職活動の世界」を知る その1		以下、グループと全体で確認と共有 ・就活の心構え ・就活の目的と目標 コンピテンシーチェックを行う	
3	「就職活動の世界」を知る その2		以下、グループと全体で確認と共有 コンピテンシーチェックを振り返る（何を伸ばし、何を補うか。自覚を促す）	
4	偶然がつくる人生		以下、グループと全体で確認と共有 ・偶然性理論とは ・これまでを振り返ってわかったこと ・具体的な3つの行動	
5	就活基礎教育（1）モノの見方 その1		以下、グループと全体で確認と共有 ・自分のモノの見方の特徴 ・モノの見方を広げるためにはどうしたらいいのか。	
6	就活基礎教育（1）モノの見方 その2		以下、グループと全体で確認と共有 ・モノの見方をどう広げたか、何が見えたか、どうしてまだ見えないのか。	
7	就活基礎教育（2）考え方 その1		以下、グループと全体で確認と共有。 ・ブレストとは、帰納法とは ・ロジックツリーを体験	
8	就活基礎教育（2）考え方 その2		議論：「就活はどんな場であるか」	
9	就活基礎教育（3）文章の書き方と構成の仕方 その1		「私の住んでいる街」をテーマに800字で作文を書く	
10	就活基礎教育（3）文章の書き方と構成の仕方 その2		グループで回し読みをし、それぞれ評価（チェックシート使用）今後の改善点をまとめる	
11	就活基礎教育（4）話の聴き方		自分の聴き方をチェックシートで確認する。 グループでお互いの良い点・改善点を出し合う。	

回	テ ー マ	内 容		
12	プレゼンの基礎を学ぶ	お互いの良い点・改善点を挙げる		
13	ディスカッションの基本 その1	テーマを与え、ディスカッションする（25分） 良い点・改善点をお互いに挙げる		
14	ディスカッションの基本 その2	実際の行うグループと評価するグループに分かれてディス カッション（1）		
15	ディスカッションの基本 その3	入れ替わり、ディスカッション（2）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
オリジナル教材及びレジュメ		総合評価	100.0%	【採点内訳】 総合評価 100%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅱ		こども保育学科／2年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
就職活動において必要な心得やスキルが取得できる。 動画で要点を学び、宿題を通じて問題や課題を発見し、授業で解決していく。なお、動画は自宅など事前に視聴することを前提とする。授業はグループワークを主として、発表を通じて、理解を深めていくスタイルを取る。				
授業終了時の到達目標				
就職活動に必要な考え方やスキルはもちろん、社会で活躍するライフスキルも身につく。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて動画を用いて予習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	履歴書の書き方と伝え方	基本情報と趣味を書いてみる。グループで回し読みをし、評価をする。		
2	自分を知る工夫（１）記憶からたどる	以下、グループで確認と共有 ・ベストニュースや２０答法を発表し、どんな特性（強み）があるのか、グループで議論		
3	自分を知る狂う（２） 他者の力を借りる その１	以下、グループで確認と共有。 ・自分はどんな特徴があると思ったか（その理由も）		
4	自分を知る狂う（２） 他者の力を借りる その２	お互いを取材し、相手の自己PRを作る。		
5	自分を知る狂う（２） 他者の力を借りる その３	グループ内で発表し、一番良いものは全体で発表		
6	自己PR（自己紹介文）を書く その１	10のステップで書いたものを、800字以内でまとめる		
7	自己PR（自己紹介文）を書く その２	グループ内で回し読みをし、評価をする（良い点・改善点）		
8	学生時代に力を入れたことを書く	グループ内で回し読みをし、評価をする（良い点・改善点）グループで良いものを全体で発表する		
9	仕事の見つけ方	理解したことをグループや全体で共有する		
10	世の中の仕事を知る	調べたことをグループや全体で共有する		
11	自分の合った仕事・社会を探す	自分が考えたことをグループや全体で共有する		
12	志望動機を書く	グループ内で回し読みをし、良い点・改善点を挙げる		
13	面接の基本	模擬面接をする		
14	インターンシップ	インターンシップで知ること・学ぶことを挙げる グループでまとめたものを全体でも共有する		
15	オンラインディスカッション	スマホの動画で撮影、良い点・改善点を挙げる		

回	テ　　マ	内　　　容		
16	模擬面接練習	面接・実技練習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		総合評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
英会話 I		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	T. R. マティソン
授 業 の 概 要				
日常的で平易な会話文を学びながら英語表現、イディオムや文法を習得する。 また、実際に基本文型のパターンを応用してコミュニケーションの手段として実践力を身につける。 また、これらのことを学ぶことで、英語表現力をふやす。				
授業終了時の到達目標				
保育関係の英単語・表現を理解し、使えるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	英会話指導歴45年			
時間外に必要な学修				
事前にテキストを読み、必要に応じて復習すること				
回	テ ー マ		内 容	
1	Pre-Unit: Please Speak More Slowly		英語でコミュニケーションをするときの基本表現 「L」と「R」の発音	
2	Unit 1: Hi, I' m Yuri Tanaka		挨拶・自己紹介 保育時間	
3	Unit 2: Where is the Multi-Purpose Room?		園内の案内 園の構成員	
4	Unit 3: Good Morning. How are You Today?		登園時の会話 持ち物	
5	Unit 4: What Color Do You Like?		工作時間の会話 好きなもの・嫌いなものを聞く	
6	Unit 5: There' s a Ladybug on the Leaf		園外散歩での会話 場所を表す表現	
7	Unit 6: It' s Time to Play Outside		園庭での会話 遊具の名前	
8	Unit 7: She is Allergic to Eggs		保護者からの相談 食に関する好き嫌い、アレルギーの有無を伝える表現	
9～12	Units 8 ? 11		お昼寝時間の会話 園行事の英語名	降園時の会話 時刻を表す英語
13～16	Units 12 ? 14 Overall Summary & Test Explanation		体調不良の園児との会話 最後の日の会話・お礼	電話応対に便利な表現 まとめ・試験について
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト「Happy English for Childcare」 プリント「Pronunciation Practice」（自作）		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・ 期末試験 70.0% ・ 授業態度 30.0%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康科学		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	元木 倫子
授 業 の 概 要				
現代社会は「超高齢社会」「余暇社会」などと呼ばれ、人類がかつて経験したことの無い時代を迎えている。このような中において、来るべく社会の問題や課題に対してスポーツはどのような意義や機能を持っているのだろうか。 スポーツ活動をライフスタイルの中に位置づけ、自主的・主体的に実践していくために必要な基礎知識・技術を習得する。				
授業終了時の到達目標				
スポーツの意義とこれからのスポーツの課題を知る 健康維持においてスポーツの役割を把握 健康管理のための運動法を知る				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園・保育所において体育指導26年 障害児の体育指導 3年 健康運動指導士として、親子体操などの健康スポーツ指導を行う。 現代社会においてスポーツの必要性を経験の知識から伝える。			
時間外に必要な学修				
自分のための、自分自身の健康づくりについて考える。				
回	テ ー マ	内 容		
1	スポーツの概念	スポーツの語源と意味		
2	社会生活の変化とスポーツ	余暇社会とスポーツ		
3	スポーツの現状	学校スポーツ、生涯スポーツ、競技スポーツについて		
4	健康の概念	健康の定義 WHOの緊急事態宣言の事例		
5	生活と運動	生活習慣病 メタボリックシンドローム		
6	〃	健康三原則 ロコモティブシンドローム		
7	運動処方	運動処方の計画・運動の実践		
8	まとめ	まなびグループ発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
健康科学		総合評価	100.0%	【評価内訳】 授業態度：10% 提出物：20% テスト：70%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生涯スポーツ		こども保育学科／1年	2025／通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	23回	1単位（46時間）	必須	元木 倫子
授 業 の 概 要				
スポーツ活動をライフスタイルの中に位置づけ、自主的・主体的に実践していくために必要な基礎的知識、技術を修得することにくわえ、「誰もが、いつでも、どこでも、気軽にスポーツを」という生涯スポーツの理念の実現に向けた学びをする。				
授業終了時の到達目標				
自分自身で身体を動かし、どのようなスポーツをどれくらいの頻度取り入れたら良いか考える。 子どもの指導を経験しながら、保育者としての姿勢も同時に学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園・保育所で体育指導26年 障害児の体育指導3年 香川県教育委員会保健体育課 体力向上指導者研修会講師 実際にスポーツを行いながら、子どもの指導ポイントについても伝える。			
時間外に必要な学修				
生涯スポーツの必要性について考える。				
回	テ ー マ		内 容	
1	身近な生活の場にスポーツを取り入れる大切さを学ぶ		生涯スポーツの効果を講義と実技で学ぶ	
2	保育現場における指導について		多様な動きを引き出す運動遊びを考え、指導ポイントについて学ぶ	
3～11	実践（各種スポーツを経験する）		各種スポーツを経験し、身体を動かす重要性を考える。	
12～15	実践（バレーボール・卓球）		バレーボール・卓球のルールを知り、身体を動かすことを楽しむ チームで協力してコミュニケーションを円滑に形成する。	
16～19	実践（バスケットボール・バトミントン）		生涯スポーツの意義を理解し、楽しむことができる。 勝負だけではなく、チームで協力することの大切さを学ぶ	
20～23	実践（スケート）		冬季スポーツスケートの基本的技術の習得を目指す。 チームに分かれ演技の発表を楽しむ。	
教科書・教材			評価基準	評価率
適宜プリント配布			総合評価	100.0%
				【評価内訳】 授業態度：80% 提出物：20%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育原理		こども保育学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	山北泰子
授 業 の 概 要				
保育の意義及び目的を理解し、保育者として子どもや保護者に関わるために必要となる基本的な視点や取り組みについて深める。法令及び制度としての保育所の役割や目的の理解とともに、保育所保育指針において保育の基本を理解し、保育の目的や意義を考察する。また、保育の思想や歴史を概観することから、現代の保育との関連性や現代社会の抱えている子どもの課題を考察する。				
授業終了時の到達目標				
保育所保育指針における保育の 本や保育の歴史的変遷について学び、呆について基本的な内容を理解する。また、様々な保育を取り巻く環境をふまえ、保育の現状と課題について本質を探究でき、自分なりの見解を持つことが出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師18年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通し、関心を持った事柄については授業で協議の内容を深めるきっかけとする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	・ 保育とは ・ 乳幼児の特徴と保育の意義とは		・ 保護と教育 ・ 人間の子どもの特質と保育の必要性	
2	・ 乳幼児期の発達的特質 ・ 幼児の思考の特徴とは		・ 身体的、感覚的発達の特質 ・ 自我の発達と幼児の思考(言葉、情動、社会的発達)	
3	・ 保育思想と児童観の変遷		・ 古代、中世、近世から近代へ 近代幼児教育思想の形成(児童観の転換)について	
4	・ 近代保育施設と制度の創設と発展 ・ 各国の保育を学ぶ		・ 創設、発展に寄与した代表的人物を知る・各国の保育の発展と児童観	
5	・ 我が国における幼稚園、保育所の成立と変遷		・ 幼稚園、保育所の保育目的と規定および保育所の種類・保育内容の変遷と内容	
6	・ 保育の内容、方法、計画、評価		・ 保育の方法形態の分類について・保育方法の基本原則について	
7	・ 保育の計画と記録のとり方		・ 教育課程と保育課程 ・ カリキュラムの作成について	
8	・ 保育の計画と記録のとり方		・ 遊びの意義と子どもの実態把握について ・ 記録のとり方について	
9	・ 保育の評価とは		・ 指導計画の評価とは ・ 指導結果の評価について	
10	・ 保育の評価とは		・ 保護者との連携のとり方	
11	・ 様々な保育と課題について		・ 幼稚園と保育所の今後と主な動向 ・ 幼保一元化と認定こども園	
12	・ 保育の多様化と課題		・ 保育所民営化と保育への企業参入 ・ 地域子ども、子育て支援事業と内容について	
13	・ 保育の多様化と課題		・ 保育の多様化と課題についての協議	
14	・ 科目終末試験設題からの授業復習		・ 設題から課題を見つけ協議し、保育の本質を探究する。 ・ 協議する中で、保育に対する自分なりの見識を持つ。	

回	テ ー マ	内 容		
15	・ 公務員試験過去問からの授業復習	・ 設問を解きながら振り返る		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 保育原理(近畿大学九州短期大学テキスト) ・ 現場の視点で学ぶ保育原理(教育出版) ・ 保育所保育指針・幼稚園教育要領 ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (文部科学省・厚生労働省・内閣府) ・ 自作プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・ 授業態度 20% ・ レポート 20% ・ 試験60%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育原理		こども保育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
初めに教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて学ぶ。その上で、教育の思想と歴史的変遷について学び今日の教育に関する基礎的な理論について理解する。また、教育の制度について理解し、それに伴う教育実践のさまざまな取り組みについて理解する。これらのことを踏まえて現代の生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。				
授業終了時の到達目標				
教育の意義と目的及び子ども家庭福祉等との関わりについての理解。 教育の思想と歴史を学ぶ。 教育の制度や取組について理解。 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
教育について考える。				
回	テ ー マ		内 容	
1	「教育」とは何か？		学校で好きな事・嫌いなことを考える（KJ法） 教育のメリット・デメリットを考える 教育とは何か？「遺伝と環境」 教育の目的 教育と家族	
2～3	幼児教育思想の歴史		「こども観」の今と昔 近代幼児教育思想の源流 日本の幼児教育と倉橋惣三 教育制度の成立と幼児教育の展開	
4	諸外国における教育・保育		諸外国の学校体系 諸外国における多様な保育実践	
5～8	西洋の教育思想①		教える思想・学ぶ思想 紙芝居の作成（ルソー・ペスタロッチ・フレーベル・モンテッソーリ） 発表	
9～10	教育法規と制度の基礎		戦後の日本の教育法規の基礎 教育基本法 学校教育法 特別支援教育	
11	現代の子育てを考える		赤ちゃんポスト 貧困家庭	
12～13	連携による教育・保育		就学前と小学校との連携 教育・保育現場と地域との連携	
14～15	教育／保育環境をめぐる現代的課題		学びの多様化 学校安全への対応 教育の情報化	
教科書・教材			評価基準	評価率
教育原理			総合評価	100.0%
				【採点内訳】 テスト40% グループ協力と発表60%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子ども家庭福祉		こども保育学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	豊田 章裕
授 業 の 概 要				
子どもを取り巻く環境の変化や、子どもの犯罪・虐待、また家族機能の変化などによって、子どもの健やかな成長が妨げられている現状について自ら問題意識を持ち、児童家庭福祉における今後の課題としてどのように取り組んでいくべきか総括的に考察できる力を養う。また、「子どもの人権」を守るための児童家庭福祉の役割と課題について理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
児童福祉の中における「保育」、「養護」の役割を知る。 児童福祉法における保育士の役割をしる。 児童福祉施設の役割を知る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		兵庫県の市の公務員として児童福祉、子育て支援、こども家庭支援の相談等いろいろな業務を行っている。		
時間外に必要な学修				
児童に関する今後の課題について調べる				
回	テ ー マ		内 容	
1	現代社会における児童家庭福祉の理念と歴史的変遷		「児童」の捕らえ方 児童家庭福祉の理念	
2	"		児童家庭福祉の歴史的変遷	
3	現代社会と児童家庭福祉		小子化の進展・家庭のあり方	
4	"		子どもの貧困問題の深刻化・いじめをめぐる問題	
5	児童家庭福祉の制度と実施体系		児童福祉六法	
6	"		児童家庭福祉の行政と実施機関	
7	"		児童福祉施設とは	
8	児童家庭福祉と保育		児童家庭福祉の目的と児童の人権 子どもの発見	
9	"		保育とは・保育サービスの現状	
10	"		多様な保育ニーズへの対応	
11	児童家庭福祉の現状と課題		少子化と子育て支援サービス・母子保健サービス	
12	"		児童虐待防止・DV	
13	"		障害のある子どもへの対応	
14	"		少年非行等への対応	
15	児童家庭福祉の動向と展望		次世代育成支援と児童家庭福祉の推進	
教科書・教材			評価基準	評価率
				その他

回	テ　　マ	内　　　　容		
児童家庭福祉		総合評価	100.0%	【採点内訳】 60% 試験 20% 提出物 20% 授業態度

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会福祉		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	豊田 章裕
授 業 の 概 要				
現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。これらのことを基礎に、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系について理解し、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。更に、共生社会の実現と障害者施策について学びを深める。これらの学びを踏まえて社会福祉の動向と課題について考察をする。				
授業終了時の到達目標				
保育者に求められる社会福祉に関する基本的な知識を習得する。 さらに、生活者としての視点で、現代社会における諸問題とそれに対応する社会福祉の意義と役割を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		病院にて援助業務を5年 現場経験を活かして援助技術の方法等を事例を通して授業を行う。		
時間外に必要な学修				
「社会福祉」の領域について自分の考えをまとめる。				
回	テ ー マ		内 容	
1	社会福祉とは		社会福祉の理念や概念について	
2	社会福祉の歴史		第二次世界大戦までと第二次世界大戦後の社会福祉 社会福祉基礎構造改革について	
3	社会保障制度について		社会保障制度の体系や種類について学ぶ	
4	子ども福祉		児童福祉法と関連法 児童福祉施設と専門職	
5～ 6	障害者福祉とはなにか学ぶ		障がいとはなにか、障がいの種類やかかわり方についてを学ぶ。 障害者福祉に関する法律と施設について学ぶ。	
7～ 8	コミュニケーション		伝え方の工夫について学ぶ	
9～ 11	相談援助の対象と過程		保育における相談援助 相談援助の過程	
12～ 14	相談援助の方法と技術		相談援助の方法と技術について考える	
15～ 16	障がいに応じた対応の仕方		車いす操作について 衣類着脱や食事介助など	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
社会福祉概論		総合評価	100.0%	【採点内訳】 試験 60% 提出物 20% 授業態度 20%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子ども家庭支援論		こども保育学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	豊田 章裕
授 業 の 概 要				
子育て家庭に対する支援の意義・目的・役割を学ぶ。保育士の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解した上で、子育て家庭に対する支援の体制を学ぶ。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
子育て家庭に対する支援の意義・目的・役割を理解する。保育士の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本、子育て家庭に対する支援の体制を理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	兵庫県の市の公務員として児童福祉、子育て支援、こども家庭支援の相談等いろいろな業務を行っている。			
時間外に必要な学修				
授業内容の復習、子ども子育てに関する新聞・ニュース記事を調べる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	家庭支援が求められる背景と意義について	家庭支援が求められる背景として家族の機能や地域社会の変化があげられ、家族と地域を育て結びつけていくことに意義がある。		
2	家庭と家族について	家族の形態や変動について。多様化する家族について。		
3	家族の機能について	家族の機能とは何か。近代化以前、近代化後、現代における家族の機能の変遷や、課題について		
4	子育て家庭を取り巻く地域社会の変遷について	近代化以前、近代化以後。現代における地域社会の変遷。		
5	家庭支援における保育者の役割について	家庭支援における保育者の様々な役割、保育所保育指針、幼稚園教育要領。保育者の姿勢について		
6	保育教育現場に求められる家庭支援について	子どもの保育教育と密接した保護者支援について		
7	在宅子育て家庭への支援について	在宅子育て家庭への支援の必要性、援助技術、姿勢について		
8	家庭支援に関わる法・制度について	子どもの権利条約をはじめ、子供や子育てに関する様々な法律や制度について		
9	子どもと家庭を支える機関や人について(1)	子どもと家庭を支える専門機関について		
10	子どもと家庭を支える機関や人について(2)	子どもと家庭を支える地域活動について		
11	子どもと家庭を支援する事業やサービスについて(1)	子どもと家庭を支援する事業の類型について		
12	子どもと家庭を支援する事業やサービスについて(2)	子どもと家庭を支援するそれぞれの事業について		
13	障害のある子どもと保護者への支援について	障害への気づき、神殿も困り感と家族の理解。多職種との連携について		
14	虐待家庭への支援について(1)	虐待事例の近年の傾向、発見・通告、保育者の役割について		
15	虐待家庭への支援について(2)	虐待事例での保護者への支援について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
	「よくわかる家庭支援論」第2版 ミネルヴァ書房	総合評価	100.0%	【採点内訳】 筆記試験 90% 授業態度 10%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会的養護Ⅰ		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	豊田 章裕
授 業 の 概 要				
社会的擁護の意義・歴史的変遷の把握を基盤に、児童観を含め児童の権利擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状及び課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、児童の生活・成長・発達の支援の在り方について考察する。				
授業終了時の到達目標				
社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	病院にて援助業務を5年 現場経験を活かして援助技術の方法等を事例を通して授業を行う。			
時間外に必要な学修				
こどもの権利と児童憲章について調べておく。				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷		社会的養護の理念と概念 社会的養護の歴史的変遷	
3～ 5	社会的養護の基本		子どもの人権擁護と社会的養護 社会的養護の基本原則 保育士等の倫理と責務	
6～ 8	社会的養護の制度と実施体系		社会的養護の制度と法体系 社会的養護の仕組みと実施体系	
9～ 12	社会的養護の対象・形態・専門職		社会的養護の対象、専門職 家庭養護と施設養護	
13～ 15	社会的養護の現状と課題		社会的養護に関する社会的状況 施設等の運営管理 被措置児童等の虐待防止	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
社会的養護Ⅰ		総合評価	100.0%	【採点内訳】 試験 60% 提出物 20% 授業態度 20%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育者論		こども保育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	山北 泰子
授 業 の 概 要				
保育者の役割・職務内容と倫理について理解する。児童福祉法における保育士の定義を理解した上で、保育士の専門性について考察する。 また、保育者の連携・協働について学び、保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ。 更に、組織とリーダーシップについて学びを深める。				
授業終了時の到達目標				
保育者の役割。職務内容と倫理について理解する。児童福祉法における保育士の定義を理解した上で、保育士の専門性について考察する。 また、保育者の連携協働について学び、保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ。 更に、組織とリーダーシップについて学びを深める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通し、関心を持った事柄を積極的に是案し、授業の中で協議する。また、レポート設題集及び科目、ミ末試験設題集にも目を通しながらテキストの関係個所の熟読。				
回	テ ー マ		内 容	
1	教育とは何か・・・教育について考える 教師とは何か・・・教師について考える		育てる事と教える事(成長助成と伝達と形) 子どもへの信頼と子どもの心	
2	教職とは何か 教師の資質能力とは		教職という仕事とその使命の理解 教師に求められる資質能力と指導力とは	
3	日本における教師の歴史 学制の制定から戦後の教師		学制の制定師範学校の創設-教育勅語とは・大正期の教師の地位 戦時下の教師・・・軍国主義と教師・戦後の教師	
4	仲間集団の現状と子どもの社会的発達 地域社会の教育力		子ども達を取り巻く社会環境と現代社会の子ども 地域社会の教育力と低下・地域住民との関わりと教育力の再構成とは	
5	幼稚園、保育所、認定こども園の生活と遊び 子どもにとっての遊びとは		園での一日の流れと保育者の仕事とは 遊びと保育の中での遊びとは(保育の形態、指導計画等)	
6	小学校との連携 小学校での遊びと授業のとらえ方		小学校の役割と教員の資質 授業のとらえ方と専科教員について	
7	学校を支える人と仕事 ひとつのチームとしての学校とは		学校を一つのチームとしてのとらえ方と必要性 専門スタッフと地域との連携体制の整備	
8	カウンセリングマインドとは		保育者、教師の資質としてのカウンセリングマインド ロジャースの3原則とは	
9	カウンセリングマインドの対象と目的 保育、教育の場での対応の実例、事例等		気にかかる子どもへの対応(事例) 特別な支援を要する子どもへの対応※ DVD視聴	
10	教師の新たな役割を学ぶ 学校における社会体験とキャリア教育の意義		情報化と教師の今後の役割とは 体験活動の重要性とキャリア教育の意義と課題	
11	教師をめぐる法律について		教育に関する法律とは 教師の教育活動について	

回	テ　　マ	内　　　容		
12	教師をめぐる法律について	教育職員免許法と教員養成の改革 教師の身分と服務義務-教師に関わるその他の法律		
13	教育改革とこれからの教師像 臨教審の発足と教育制度改革とは	臨教審とは(麟教審の任命背景と概要) 臨教審以後の教育制度改革		
14	教員への道	教員採用試験と就職 公立幼稚園と私立幼稚園		
15	教育とは何か・・・教育について考える 教師とは何か・・・教師について考える	まとめとして関心のある事柄について全体で協議 公務員試験過去問実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教職概論 教職入門　萌文書林　古橋和夫編 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 自作プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度：20% 提出物:20% テスト:60%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育の心理学		こども保育学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	木曾真理絵
授 業 の 概 要				
保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について学び、心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験・環境の意義が理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭として10年勤務			
時間外に必要な学修				
乳幼児期の発達段階を学習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	発達心理学		発達心理学とは	
2～3	遺伝と環境		環境と遺伝	
4～5	赤ちゃんの発達		原始反射～愛着	
6～7	思考能力		ピアジェの思考の発達段階	
8	遊び		遊びの種類	
9～10	友達関係		友達関係から学ぶことや役割について	
11	行動主義		学習理論について	
12～13	小学校との連携		連携における大切なことや課題について	
14～15	内発的動機づけ、外発的動機づけ		スキナーやパブロフなど	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 試験 50% 授業態度 50%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子ども家庭支援の心理学		こども保育学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の状況と課題について理解し、子どもの精神保健とその課題について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
生涯発達と初期経験の重要性を理解する。 家族・家庭の理解や子育て家庭に関する現状と課題を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
身近で出会う乳幼児をよく観察し、子どもの発達を学ぶ。				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	乳児期・幼児期の発達		原始反射・表情・運動発達（乳児期） 認知・言語・社会性・自我の発達（幼児期）	
3～ 4	学童期・青年期の発達		認知の発達・社会性の発達・自己発達（学童期） 身体の発達・認知に発達・自己の発達（青年期）	
5～ 6	青年期・中年期・高齢期の発達		身体の発達・認知の発達（青年期） 中年期危機とは・職業にかける課題（中年期） 生涯発達における高齢期とは（高齢期）	
7	家族・家庭の意義と機能		家族とは	
8	家族関係・親子関係		家族のライフスタイル 親子とは	
9	子育ての経験と親としての育ち		子育て	
10	子育てを取り巻く社会的状況		晩婚化・非婚化・出産・子育て	
11	ライフコースと仕事・子育て		ライフコース	
12	多様な家庭とその理解		多様な家庭と家族	
13	特別な配慮を要する家庭		子育てが難しい母親の理解	
14	子どもの生活・生育環境とその影響		生活習慣と体質	
15	子どものこころの健康にかかわる問題		きになる子どもの障害	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
子ども家庭支援の心理学		総合評価	100.0%	【採点内訳】 レポート 70% 授業態度 30%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもの理解と援助		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	山北 泰子
授 業 の 概 要				
保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解し、子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。また、子どもを理解するための具体的な方法や、理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				
授業終了時の到達目標				
乳幼児期の子どもの発達の特徴を理解し、適切な子どもへの関わり方を習得する。 人をとの関わり方をどのように学習していくのか、どのように人間関係を築いていくのかを学び、保育の中で工夫や援助ができるようになることを目指す。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通し、保育の中でのいろいろな事例を想定しながら疑問点や課題を、授業の中でグループ討議する。				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	○乳幼児期の発達の特徴		・0歳児～5歳児の発達の特徴 ・乳児期の発達の特徴 ※ DVD視聴（赤ちゃんは賢い・東京大学研究事例から）	
	○愛着と親子関係		・愛着と形成について ・ボウルビイの愛着の発達の過程から考える ・愛着のタイプと養育者の関わり方	
	○人と人との関わりでの発達		・人間関係の始まりから仲間関係への過程	
5～8	○言葉の獲得と人との関わり		・子どもの姿から考察し、グループで協議	
	○事例から子どもの心を考察		※ DVD視聴（はじめてのおっかい）	
	○ハントとピアジェの発達理論		・学びの動機づけとは・・・内発的動機づけと外発的動機づけ	
	○遊びの重要性		・遊びとは何か ・遊びは幼児期にとってどんな意味があるか	
	○保育における評価とは		・保育における評価とは	
教科書・教材			評価基準	評価率
・幼稚園教育要領。保育所保育指針 ・幼保連携認定こども園教育・保育要領 ・参考資料配布 ・保育に生かす教育心理学（近畿大学九州短期大学テキスト）			総合評価	100.0%
				【採点内訳】 ・授業態度 20% ・意欲 20% ・グループ協議への積極的な参加

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもの保健		こども保育学科／2年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	西原 和代
授 業 の 概 要				
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学び、身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。これらを踏まえて、子どもの疾病の予防法と対応について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解した上で、子どもの身体的な発育・発達と保健について学ぶ。子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。また。子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	開業助産師として妊産婦や地域の子育て支援、障害児の訪問看護を通して経験したことを教育に生かすことができるようにする。			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	子どもの保健とは①		身体発育、生理機能について理解する。	
2	子どもの保健とは②		運動機能、精神機能について理解する。	
3	子どもの食事①		母乳栄養、人工栄養について理解する。	
4	子どもの食事②		離乳食について理解する。	
5	虐待		事例を通して虐待の実際について理解する。	
6	子どもの病気①		アレルギー	
7	子どもの病気②		ウィルス感染症について理解する。	
8	子どもの病気③		細菌感染症について理解する。	
9	子どもの病気④		予防接種について理解する。	
10	子どもの病気⑤		消化器	
11	子どもの病気⑥		循環器	
12	子どもの病気⑦		呼吸器	
13	子どもの病気⑧		泌尿器	
14～15	子どもの病気⑨		その他の病気	
16	統計		国民衛生の動向を参考資料に使い、母子保健の現状の理解を深める	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容	
近大テキスト		総合評価	100.0%【採点内訳】 確認テスト30% 授業態度20% 課題・レポート 50%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもの食と栄養		こども保育学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	荒牧 礼子
授 業 の 概 要				
1. 小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解し、小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解させる。 2. 食生活を通じて、生活全般や環境の望ましい姿を理解させる。				
授業終了時の到達目標				
・小児期、思春期の心身発育と発達について説明できる。 ・食生活が人間の成長、生涯にわたる健康的な生活の基礎となることを理解し、バランスのとれた献立を考えることができる。 ・子どもが喜ぶ食育メニューを衛生的に作ることができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
無				
時間外に必要な学修				
まずは、自分の食事バランスや生活習慣をより良いものにするために、目標を立ててみましょう。そして、すこしずつ実践してみてください。				
回	テ ー マ	内 容		
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもや保護者を取りまく食生活の現状と課題について		
2	栄養に関する基礎知識	三大栄養素 五大栄養素について 食材を分類する		
3	栄養に関する基礎知識	栄養素の種類と機能について 炭水化物 脂質		
4	栄養に関する基礎知識	消化吸収のしくみ		
5	栄養に関する基礎知識	栄養素の種類と機能について 無機質 ビタミン		
6	栄養に関する基礎知識	栄養素の種類と機能について たんぱく質		
7	子どもの発育・発達と食生活	発育・発達の基本的考え		
8	乳幼児の授乳の意義と食生活	乳児期の栄養・食生活の特徴について 母乳、人工栄養について		
9～10	離乳の意義と食生活	基本の調理 お粥 出汁の取り方 茹でる 漬す		
11～12	間食の意義	スイートポテト ハロウィンスイーツ（かぼちゃプリン）		
13～14	保育における食育の意義・目的	粉からこねるピザづくり 見た目もカラフル栄養満点ピザづくり		
15～16	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギー対応の米粉ロールケーキ フルーツジャム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
子どもの食と栄養 北大路書房		総合評価	100.0%	毎回、授業中に課題または小テストを出します。 期末試験は授業中に説明した内容か

回	テ　　マ	内　　　　容		
				ら出題します。 出席率40%、課題 レポート30%、期 末試験30%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育課程総論		こども保育学科／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	山北 泰子
授 業 の 概 要				
保育内容の充実と質の向上に質する保育の計画及び評価について理解し、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を学ぶ。 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。				
授業終了時の到達目標				
保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。 全体的な計画と指導計画の作成について、意義と方法を理解する。 保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）についてその全体構造を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
数多くの指導案に目を通し、保育の組み立て方を学ぶ。				
回	テ ー マ		内 容	
1	保育の計画と評価の基本		カリキュラムの基礎理論	
2	"		計画・実践・記録・省察・評価・改善の過程の循環による保育の質の向上	
3	保育課程		保育の全体計画の変遷と展開 指導計画（長期・短期）	
4	教育課程		教育課程の変遷と展開 指導計画（長期・短期）	
5	子どもの発達過程と指導計画		「発達」についての基礎的理解 発達の特性と発達過程	
6	"		発達過程を保育現場に生かす	
7～11	保育の計画の作成と展開		保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 指導案の書き方、留意事項	
12	保育所・幼稚園における保育の評価		保育の記録・省察及び評価の意味	
13	"		保育日誌とエピソードから読み取る	
14	保育の評価		保育所の自己評価・第三者による評価の意味	
15	実習につなげるために		実習生が作成する指導案について（ポイント）	
16	実習につなげるために		実習生が作成する指導案について（ポイント）	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト 60% 提出物と平常点 40%

回	テ ー マ	内 容		

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育内容総論		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し、保育の全体的構造を理解する。また、擁護と教育が一体的に展開することを具体的な実践につなげて理解する。また、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育過程につなげ、保育の多様な展開に対応できることを目指す。				
授業終了時の到達目標				
保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解する。 また、子どもの発達を理解し、遊びを通した園生活を子どもと共につくり上げていく過程を学ぶ。具体的に、保育の事例を読み解き、考えることで5領域を踏まえた育ちの見方、見取りについて知る。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
予習（テーマに沿った調べ学習、授業内での発表の準備） 復習（授業で出されたテーマに関するレポートの作成）				
回	テ ー マ	内 容		
1～5	子どもの育ちを保障するための保育の基本 保育内容の歴史の変遷 保育の方法（環境・遊びと生活） 保育における計画	・遊びと生活を通して総合的に指導する保育の特質について理解する。 ・保育者の役割や環境構成について具体的に理解する。 ・主体的な活動としての子ども遊びについて理解する。 ・現行の保育内容が設定される時代背景、現代の子どもを取り巻く社会状況について理解する。		
6～8	年齢と保育内容：0歳 年齢と保育内容：1歳 年齢と保育内容：2歳 年齢と保育内容：3歳 年齢と保育内容：4歳 年齢と保育内容：5歳	・各年齢の発達の特徴と発達課題について理解する。 ・子どもの発達を促す環境構成と遊びについて演習も取り入れながら理解する。 ・事例を通してグループワークしながら子どもの見取りについて学ぶ。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育内容総論		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト50% 授業態度 50%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康（指導法）		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	元木 倫子
授 業 の 概 要				
幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動あそび」と「基本的生活習慣」に関する保育者の指導・援助の在り方をテーマとして検討していく。				
授業終了時の到達目標				
・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。 ・ 「健康」に関する保育内容（①就学前段階の運動遊びの指導・援助 ②基本的生活習慣の形成及びその援助 ③健康、安全に関する保育活動）および方法実践的に探究していくために必要な基礎的な知識、技能を獲得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園・保育所にて体育指導20年 障害児の体育指導3年 健康運動指導士として親子体操、家庭教育学級などの講師を行う。 現場経験を活かし、5領域の「健康」について事例を通して伝える。		
時間外に必要な学修				
子どもの健康な心とからだの基礎をつくる重要性な領域であることを予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	領域「健康」 乳幼児の「健やかな心と身体」		ねらいと内容 乳幼児の心身の発達の捉え方 基本的生活習慣と食事 安全指導 予防と健康な生活	
5～8	運動遊び：理論 運動遊び：実践 まとめ		年齢に応じたねらいと内容 子どもの体力づくり 運動意欲を育む指導 運動遊び、リズムあそび、ダンス	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【評価内訳】 授業態度：20% 提出物：10% 発表：70%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間関係（指導法）		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	佐藤 洋美
授 業 の 概 要				
子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。また、子どもが、単に集団にうまく適応することのみを問題にするものではなく、「他者理解」を通して人の豊かなかかわりを経験することの意義を学ぶ。人との豊かなかかわりを育てる保育者としての役割について学習する。				
授業終了時の到達目標				
領域「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識・技術を習得する。 子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育所にて勤務 保育士28年、副所長4年、所長8年		
時間外に必要な学修				
自分の人間関係について日ごろから考え、どう周りの人に関わればいいのかを考える。				
回	テ ー マ	内 容		
1～4	領域「人間関係」	ねらいと内容 自我の芽生えと人との関わり		
5～8	「人間関係」の重要性	子ども関わりの世界を支える保育士同士の関係 「集団」での子どもの人間関係 良好な人間関係 関わりで気になる子どもへの援助		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
対話的・深い学びの保育内容 適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 作品提出70% 授業態度30%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
環境（指導法）		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	佐藤 洋美
授 業 の 概 要				
子どもにとっての環境とは、物的環境・人間環境・自然環境などさまざまな環境が相互して育ちに関わっている。保育者と子どもが基本的に安全で心地よく生活する条件を具体的に保育施設の構造・人間関係をもとに考察し、より良い子どもの遊びの空間を創造するための理論・技術を備えた保育士の育成を目的とする。				
授業終了時の到達目標				
幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらい・内容の構造を理解する。 子どもが身近な環境にはたらきかけることの意義とその大切さを知り、環境の工夫に努めることを学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	保育所にて勤務 保育士28年、副所長4年、所長8年			
時間外に必要な学修				
子どもが育つ望ましい環境について考える				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	領域「環境」とは 領域「環境」と保育方法		・子どもにとってのよりよい環境（物的環境、人的環境、自然環境 等）について考える ・人的環境としての保育者の役割とあり方について探る	
5～8	「環境」保育の実際 「環境」実践上の留意点		・指導方法とその実践について学ぶ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
こどもと環境 その他 資料適宜配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認試験 50% 授業態度 40% 提出物 10%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
言葉（指導法）		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	佐藤 洋美
授 業 の 概 要				
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」における保育内容・言葉の「目標」「ねらい」「内容」を理解し、保育者としての子どもとの関わり方についての具体的な実践方法について検討し、実践できる力を身に付けることを目指す。				
授業終了時の到達目標				
①人間にとっての言葉（言語）の役割・言葉獲得の理論を理解し、説明できる。 ②子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、保育者としての子どもとの関わり方を身に付け、実践できる。 ③保育所保育指針における保育内容「言葉」を理解し、言語獲得の構成・言葉の力を育む指導を実践できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	保育所にて勤務 保育士28年、副所長4年、所長8年			
時間外に必要な学修				
言葉遊びを探し、教材を作る。 5領域「言葉」のねらいと内容を熟読する。				
回	テ ー マ	内 容		
1～4	領域「言葉」 保育者の関わり方	ねらいと内容 乳児期の言語について 幼児期の言語について		
5～8	言葉に対する感受性や表現力 まとめ	言葉による表現方法を詩、ペープサート、読み聞かせなどの物語教材を通して体験、実践し、表現力を身につける 読み聞かせ、演技での留意点・方法 振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テストと発表 60% 授業態度 40%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
造形表現（指導法）		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	中村 明子
授 業 の 概 要				
幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された教育・保育の基本、表現領域のねらい及び内容を理論と実践を通して理解する。 造形表現の技法、身近な素材教材への応用など、常に他分野と共存する幼児の生活を学び、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法と、造形表現の基礎教養を各課題と体験、資料配布と定期試験を行うことで教授する。				
授業終了時の到達目標				
幼稚園・保育所において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された「表現」のねらい及び内容について背景となる造形表現と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達にそくして、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身に付ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	保育士として17年、専門学校教員としても6年経験			
時間外に必要な学修				
いろいろな表現技法を知り、実際に表現してみる。				
回	テ ー マ		内 容	
1	5領域「表現」 新聞紙を使って遊ぶ！		5領域「表現」 新聞紙を使った遊びを考えよう。 イメージを膨らませ、創意工夫しながら表現を楽しもう。	
2	5領域「表現」		5領域における「表現」について 幼児期の造形表現を考える 人的環境について考える	
3	造形表現の発達について		乳幼児期の造形表現の発達について	
4～5	技法		いろんな美術表現技法をやってみよう。	
6	幼稚園・保育所の12か月の製作活動について		身近な素材を利用して	
7	レポート作成		造形表現の発達	
8	近大課題演習		色彩	
9～12	5領域「表現」 保育現場における表現方法		ペープサート作り（各自年齢に応じた作品選択） 発表	
13～16	グループワーク おもちゃ作り		作って遊べるおもちゃを制作 各グループ 発表	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 作品 20% レポート20% 授業態度 60%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
幼児と音楽表現		こども保育学科／1年	2025／後期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	8回	1単位（16時間）	必須	澤井 歩	
授 業 の 概 要					
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。和音感、リズム感などピアノの力をつける。その上で、子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開などにも視点を向けていく。					
授業終了時の到達目標					
モンゴルの小・中学校の音楽教師 盲学校音楽教師 高校音楽教師					
実務経験有無		実務経験内容			
有		・ヤマハ音楽教室幼児化講師4年 ・障害児・障害者施設にて音楽療法2年 ・こども園にて、子育て支援、音楽指導1年 現在継続中 現場経験を活かし、音楽技術・表現方法・指導法を教える			
時間外に必要な学修					
弾き語りで発表する曲の練習、合奏のパート練習					
回	テ ー マ		内 容		
1～4	童謡合唱（年少、年中、秋冬の曲） 理論 リズム打ち（4/4、3/4、2/4、6/8拍子） リトミック 合奏 童謡 選7曲弾き語り練習		発声を意識し、音程正しく、歌詞は覚える 調号、調について 音符を見て打てる、自分で作る パートを決め練習する なるべく弾き語りできるように練習する		
5～8	童謡合唱 理論 コード 弾き語り、発表 合奏		固定ドで歌う 各調の音階、和音を弾く 和音を弾く 1人ずつ発表し、緊張状態の自分を知る テンポを合わせ、お互いの音を聞く		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
ピアノ伴奏 保育のうた12ヶ月 やさしい楽しい器楽合奏集 リトミック百科 ピアノ曲集			総合評価	100.0%	【採点内訳】 ピアノ・声楽 60% 授業態度 40%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と造形表現		こども保育学科／2年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	木曾 真理絵
授 業 の 概 要				
子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。表現技術の一つとしての造形に関する知識や技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
作品の制作・発表を通して、造形表現におけるコミュニケーション力をつける				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年勤務		
時間外に必要な学修				
自己表現とコミュニケーション能力の形成についての考察				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	パペットシアター 1. パペットの下描き・ストーリー制作 2～3. 塑像（粘土）で動物の頭と手を作る 4. 舞台背景作り		・ 5分程度で主な登場人物2名程度のストーリーを考える ・ パペット下描きは色鉛筆で着色 ・ 紙粘土を使って動物の頭と手を制作 ・ 絵具を混ぜ込むことでの混色や紙粘土成型を学ぶ ・ ダンボールなどを使って家や森などの背景制作 ・ リサイクル工作を学ぶ	
5～8	パペットシアター 5～6. パペット着衣制作 7. 舞台背景作り 8. パペットシアター発表会		・ 布を使ってパペットの服づくり ・ 縫わない服づくりを学ぶ ・ 笑顔で 大きな声で わかりやすい発表を練習する ・ 楽しいパペットシアターを体得する	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度 40% 課題作品 60%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と健康		こども保育学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	元木 倫子
授 業 の 概 要				
「体育」の意義と保育の中での位置づけを学ぶ。また、子どもの発達に応じた体育活動・教材・教具の内容を知り、子どもを主体にした「楽しい運動遊び」 体育の指導・援助を保育の場面を想定して実技を行いながら学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
幼児体育の重要な役割「楽しく遊ぶ力」を育てるプログラムづくり、「導入」→「展開」→「まとめ」を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園・保育所で体育指導27年 障がい児の体育指導3年 香川県教育委員会保健体育課 体力向上指導者研修会講師			
時間外に必要な学修				
教科書に目を通しておく				
回	テ ー マ	内 容		
1	幼児体育をどうとらえるか子どもの発達とつきたい力	自分の体を思い通りに動かせ、遊ぶ力を身につけさせる。		
2	自分の位置や動きを知る力	自分がどんな状態にあるのかをつかむと同時に、動いているボールや人との距離や間合いをはかる力を知る。		
3	転ばずに姿勢を維持する力について	不安定な足場や空中で身体を保ったり、体勢が崩れた時に上手に立て直す力の大切さを学ぶ		
4	手足や用具を操作する力	身体 of 力を入れる、ちょっと抜く、ゆっくり力を入れるなどイメージ通りに体を動かせる力を調整する運動遊びプログラムを体験する。		
5	タイミングを合わせる力	動きにリズムやテンポをつけたり、ボールや人の動きとタイミングを合わせるなど実際体験する。		
6	情報にすばやく応じる力	人の動き、光や音など、外部からの情報をすばやく察知し、正しくスピーディに動き出す力を引き出すための運動遊びを考える。		
7	スムーズにムダなく動く力	いくつかの異なる動きをスムーズにつなげ、運動プログラムを考える。		
8	変化に応じて動きを変える力	状況に合わせて、とっさに動きを変えたり、適切な動きを選択・実行できたりする力を身につける。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼児の運動あそび		総合評価	100.0%	今の子どもの体力について調べておく 【評価内訳】 授業態度：20% 提出物：10%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と言葉		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	佐藤 洋美
授 業 の 概 要				
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。子どもが生活の中で、経験したことや考えたことなどを自らが自分なりのことばで表現し、相手の話すことばを聞こうとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を養う。また、絵本や紙芝居の読み聞かせなど実践的な学習をする。				
授業終了時の到達目標				
言葉の発達過程について理解し、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 児童文化財について、基礎的な知識を身に付ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	保育所にて勤務 保育士28年、副所長4年、所長8年			
時間外に必要な学修				
多くの絵本を読む。				
回	テ ー マ		内 容	
1	言葉とは		人間にとって「言葉」とは ことばの持つ力を考える	
2	言葉の発達		言葉の発達過程と発達課題	
3	言葉の発達		ゆびさし行動から見える言葉の発達	
4	5領域		5領域「言葉」からみる「ねらい」と「内容」 保育現場で見られる子どもの姿	
5	なぞなぞ		3～5歳児向けのなぞなぞ本製作	
6	絵本		子どもにとって絵本とは	
7～ 8	言葉を通して遊ぶ		日本語っておもしろい 言葉遊びのいろいろ	
教科書・教材		評価基準		評価率
テキスト 資料配布		総合評価		100.0%
				【採点内訳】 提出物とレポート 80% 授業態度20%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
乳児保育Ⅰ		こども保育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	佐藤 洋美
授 業 の 概 要				
乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について学び、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
授業終了時の到達目標				
乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。 保育所・乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解する。 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	保育所にて勤務 保育士28年、副所長4年、所長8年			
時間外に必要な学修				
赤ちゃんの育つ過程を学習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1～6	乳児の命を預かっている		感染症・感染症対策について 事故防止について 母子健康手帳を学ぶ・母子健康手帳から学ぶ	
7～8	発育・発達をふまえた保育		子どもの発育・発達について 子どもの発育・発達をふまえた援助・関わり・配慮について	
9～11	乳児に適したおもちゃ		子どもの発達と遊具について	
12～13	乳児保育における連携・協働		職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 自治体・地域の関係機関等との連携・協働	
14～15	練習		おむつ交換・授乳・調乳・沐浴等	
教科書・教材			評価基準	評価率
乳児保育 母子健康手帳			総合評価	100.0%
			【採点内訳】 授業態度 30% 確認テスト 50% 課題レポート20%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
乳児保育Ⅱ		こども保育学科／2年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	佐藤 洋美
授 業 の 概 要				
3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、計画の作成について、具体的に理解する。				
授業終了時の到達目標				
3歳未満児の発育・発達の過程や特性を理解し、援助や関わりの基本について理解できる。 3歳未満児の生活や遊びなどについて理解する。 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、計画の作成について、具体的に理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園・保育所28年勤務 副所長4年 所長8年			
時間外に必要な学修				
教科書による事前学習				
回	テ ー マ		内 容	
1	乳児保育の必要性		社会的背景を考える	
2	乳児保育の成り立ち		歴史と現状について	
3	乳児保育に関係ある法律		児童福祉法、保育所保育指針について	
4	乳児のこころの発達		人見知りなど身近な人との絆作りについて	
5	乳児のからだ		発育と運動機能の発達	
6	保育所でのデイリープログラム		年齢別日課表	
7	保護者との連携		協力関係について	
8	発達の遅れ		保護者を支える	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
同文書院「はじめて学ぶ乳児保育」第二版		総合評価	100.0%	【採点内訳】 テスト60% 授業態度40%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもの健康と安全		こども保育学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	西原 和代
授 業 の 概 要				
保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応について、保育における感染症対策について、具体的に理解する。乳児の授乳、おむつ交換、沐浴など実践的に学び理解する。				
授業終了時の到達目標				
子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解し、子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 乳児の授乳、おむつ交換、沐浴などが安全に実施できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～ 2	子どもの健康と安全	健康と安全について		
3	子どもに多い病状・病気とその対処及び予防	子どもの病気について		
4	危機管理と災害対策について	保育における危機管理と災害への備えについて		
5～ 6	調乳・授乳、おむつ交換、沐浴について	実際に手順や観察ポイント、気を付けるポイントを踏まえて説明。 その後、実際に実践していく。		
7～ 8	実技テスト	調乳・授乳、おむつ交換、沐浴のテストを実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
子どもの健康と安全 演習ノート		総合評価	100.0%	【採点内訳】 テスト60% 授業態度 40%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
障害児保育		こども保育学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	山北泰子
授 業 の 概 要				
障害種ごとの症状、原因、心理、保育の留意点について理解する。特に幼稚園や保育所に多く在籍する知的障害を含む発達障害を中心に学ぶ。 障害や発達の遅れのある子どもにおいては、特に配慮の必要性があることを理解し、感覚、身体、運動、知的情緒、対人関係等理解を深め、保育的援助を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
子どもの心身の発達、脳の発達について理解を深め、障害児、の理解また関心を持って取り組むことが出来る。 障害種ごとの症状、原因、心理の理解。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年、乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
日常的に興味、関心を持つ障害の情報についての事前学習。 事前にテキストに目を通す。				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	○障害児保育とは何か ○乳児期の発達課題と障害の特性 ○障害の特徴と保育での支援		・ 保育現場にいる障害のある子ども ・ 障害のとらえ方 ・ 障害児保育のあゆみ ・ 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由児、言語障害 ・ 自閉症スペクトラム、注意欠如、多動性、学習障害	
5～8	○家庭への支援 ○発達支援の技法 ○まとめ		・ 障害の子に向き合うとは ※ DVD視(自閉症の君が教えてくれた事) NHK放送 ・ 親、兄弟への支援 ・ 障害幼児の療育総論 ・ 療育の歴史、療育の状況 ・ 早期発見と早期治療と留意点	
教科書・教材		評価基準		評価率
・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針 ・ 幼保連携認定こども園教育・保育要領 ・ 参考資料配布 ・ よくわかる障害児保育 (近畿大学九州短期大学テキスト)		総合評価		100.0%
				【採点内訳】 レポート90% 平常点10%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児への特別な支援		こども保育学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	山北泰子
授 業 の 概 要				
障害種ごとの症状、原因、心理、保育の留意点について理解する。特に幼稚園や保育所に多く在籍する知的障害を含む発達障害を中心に学ぶ。障害や発達の遅れのある子どもにおいては、特に配慮の必要性があることを理解し、感覚、身体、運動、知的情緒、対人関係等理解を深め、保育的援助を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
子どもの心身の発達、脳の発達について理解を深め、障害児への理解また関心を持って取り組むことが出来る。障害種ごとの症状、原因、心理の理解するし、発達の變化を促す援助について考えることが出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年、乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
日常的に興味、関心を持つ障口の情報についての事前学習。				
回	テ ー マ	内 容		
1	・ 障児保育とは何か	・ 保育現場にいる障害のある子ども ・ 障害のとりえ方と乳幼児期の発達課題と障害特性		
2	・ 障害児保育の仕組み	・ 障害児保育のあゆみと制度と形態について ・ 乳幼児健康診査と早期発見の重要性		
3	・ 障害の特徴と保育の実際 ・ 知的障害の特徴と保育での支援	・ 知的障害のとりえ方 ・ 保育現場における支援とは		
4	・ 自閉症スペクトラム障害の特徴	・ 障害のとりえ方と特徴と二次障害について ・ 個別配慮や小集団を利用した保育と支援のポイント		
5	・ 注意欠如、多動性障害の特徴と保育現場での支援	・ 障害のとりえ方と特徴について ・ 支援のポイントと二次障害について		
6	・ 学習障害の特徴と保育での支援 ・ 障害保育の体制づくり	・ 障害の種類と特徴と支援について ・ 保育所、幼稚園での支援体制とは(インクルーシブ保育)		
7	・ 支援の技法を学ぶ ・ 家族への支援と障害児へのアセスメント	・ 親、兄弟への支援 ・ 心理検査と愛着の評価		
8	・ 発達支援の技法	・ 療育とは(療育の現状) ・ 早期発見と早期療育の重要性 ・ 指導技法について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ よくわかる障害児保育(ミネルヴァ)尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 ・ 自作プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・ 授業態度 20% ・ レポート 20% ・ 試験 60%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会的養護Ⅱ		こども保育学科／2年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	尾崎 桃子
授 業 の 概 要				
社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理についてや、施設養護及び他の社会的養護を学ぶ。これらを基本として個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。また、社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法の技術について理解し、福祉についての理解や認識を深める。				
授業終了時の到達目標				
社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
社会的養護Ⅰで学んだ内容について再度学習しておく				
回	テ ー マ	内 容		
1	社会的養護における児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務	児童の権利擁護 保育士等の倫理綱領		
2	社会的養護の実施体系	施設養護の特性及び実際 里親制度の特性及び実際		
3	支援の計画と内容および事例分析	個別支援計画の作成		
4～5	〃	日常生活支援・治療的支援・自立支援に関する事例分析		
6	社会的養護にかかわる専門的技術	保育士の専門性にかかわる知識・技術との応用		
7	〃	ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用		
8	今後の課題と展望	施設の小規模化と地域とのかかわり 社会的養護の課題と展望		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 60% 試験 40% 授業態度

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子育て支援		こども保育学科／2年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	尾崎 桃子
授 業 の 概 要				
現代のライフスタイルと福祉ニーズの変化に対応した社会福祉実践者が必要とされている。そこで、社会福祉で学習したことを基礎に、相談援助の目的を明確化し、児童福祉実践者としての専門的な「方法」を理解し活用できる専門技術を身に付ける。				
授業終了時の到達目標				
児童及び家庭へのケースワークとグループワークが実践できる、児童及び家族の環境への介入ができる保育士として求められる相談援助の理論と技術を修得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
現代社会においての子育て支援に関わる問題について考える。				
回	テ ー マ	内 容		
1	相談援助の概要①	相談援助の理論、相談援助の意義、相談援助の機能		
2	相談援助の概要②	相談援助とソーシャルワーク 保育とソーシャルワーク		
3	相談援助の方法と技術①	相談援助の対象		
4	相談援助の方法と技術②	相談援助の展開過程		
5	相談援助の方法と技術③	相談援助の基本的技術		
6	相談援助の方法と技術④	相談援助の実践アプローチ		
7	相談援助の具体的展開①	計画・記録・評価 関係機関との連携		
8	相談援助の具体的展開②	社会福祉専門職・社会資源の活用		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 提出物20% 平常点40% 発表40%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習Ⅰ（保育所）		こども保育学科／1年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
保育所の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。また、保育の計画・観察・記録及び自己評価等についてや、保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解する。				
授業終了時の到達目標				
保育所で生活を体験することで、その位置づけを体験する。 ①役割や機能を具体的に理解する。 ②子どもへの理解を深める。 ③子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
無				
時間外に必要な学修				
保育園でどんな保育がされているのかを調べる。 実習の手引きを熟読し、教材等の準備をしておく。				
回	テ ー マ	内 容		
1～45	保育所の役割と機能 子どもの理解 保育内容 保育環境 保育の計画 観察・記録 専門職としての保育士の役割と業務倫理 観察実習 参加実習 部分・責任実習 研究保育	保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり 保育所保育指針に基づく保育の展開 観察とその記録による理解・発達過程の理解・子どもへの援助や関わり 保育の計画に基づく保育内容・子どもの生活や遊びと保育環境・子どもの健康と安全 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 記録に基づく省察・自己評価 保育士の業務内容・職員間の役割分担や連携と協働 保育士の役割と職業倫理 発達に適した保育の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める。 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「保育実習事前事後指導」		総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については、実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮した上で採

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習Ⅰ（施設）		こども保育学科／1年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察や子ども・利用児（者）との関わりを通して子ども・利用児（者）への理解を深める。既習の教科目の内容を踏まえ、子ども・利用児（者）の保育及び保護者への支援について総合的に理解する。また、保育（援助）の計画・観察・記録及び自己評価等についてや、保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解する。				
授業終了時の到達目標				
①役割や機能を具体的に理解する。 ②子ども（利用者）への理解を深める。 ③子どもの保育・利用者の支援・保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育（支援）の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 ⑥自分が立てた実習課題を達成する。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
実習施設の調べ物学習 教材研究及び作成				
回	テ ー マ	内 容		
1～45	施設の役割と機能	施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わり 施設の役割		
	子ども・利用者理解 施設における子ども・利用者の生活と環境	子ども・利用者の観察とその記録、個々の状態に応じた援助やかかわり 計画に基づく活動や援助、心身の状態に応じた生活と対応、活動と環境		
	計画と記録 専門職としての保育士の役割と倫理	子ども・利用者を取り巻く社会や家族の問題 健康管理、安全対策の理解 支援計画の理解と活用、業務内容、役割分担と連携		
	観察実習 参加実習	実習指導者の指導や助言に従い、積極的に参加する。 1日を振り返り考察し、学びを深める。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育実習事前事後指導		総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については、 実習指導者の評価 と担当教員の評価 を考慮した上で採

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅰ		こども保育学科／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
【保育所】1～8 保育所実習の事前学習として保育所保育指針を基に、保育所や保育、保育士について知る。また、部分実習の準備として、指導案作成や模擬保育を通して、保育や保育士の在り方について学ぶ。				
【施設】9～16 施設実習の事前学習として各施設の運営指針を基に、児童福祉施設や障害者施設について知る。また、部分実習やレクリエーションの準備として、計画の作成を通して児童福祉施設や障害者施設、職員の在り方について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
【保育所】 保育所実習の意義・目的を理解する。実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。保育所の子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確化する。				
【施設】 施設実習の意義・目的を理解する。実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。施設の子どもの利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確化する。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
実習園と実習施設の研究とともに 教材準備。				
回	テ ー マ		内 容	
1～8	保育実習の意義		実習の目的と概要を学ぶ。	
	保育実習の内容と課題の明確化		実習の内容と課題について理解する。	
	保育実習に際しての留意事項		子どもの人権と最善の利益の考慮やプライバシーの保護と守秘義務について学ぶ。 実習生としての心構え	
	保育実習の計画と記録		実習における計画と実践 実習における観察、記録及び評価について学ぶ。	
	事後指導における実習の総括と課題の明確化		実習の総括と自己評価 課題の明確化	
9～16	施設実習の意義		実習の目的と概要を学ぶ。	
	施設実習の内容と課題の明確化		実習の内容と課題について理解する。	
	施設実習に際しての留意事項		子どもの人権と最善の利益の考慮やプライバシーの保護と守秘義務について学ぶ。実習生としての心構え。	
	施設実習の計画と記録		実習における計画と実践 実習における観察、記録及び評価について学ぶ	
	事後指導における実習の総括と課題の明確化		実習の総括と自己評価 課題の明確化	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ　　マ	内　　　　容		
保育所保育指針 保育所保育指針 プリント	解説書	総合評価	100.0%	【採点内訳】 保育50% 施設50%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育・教職実践演習		こども保育学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	山北 泰子
授 業 の 概 要				
1．教育課程の全体を通して、保育士・教諭として必要な保育・教育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2．保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育・教育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士・教諭、保育・教育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する。 3．1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を図る。				
授業終了時の到達目標				
以下の視点について理解し、習得、形成状況を把握している。 ①保育士・教諭の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理 ②社会性・対人関係能力 ③子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携 ④保育や子育て家庭に対する支援の展開 自身の習得した知識・技術等と保育・教育に関する課題等から、自己の課題を把握できている。 その上で、目指す保育士像・教諭像や今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法等を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力が定着できている。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年、乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
今までの学習や実習を振り返り、自己課題をみつける。				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	学びの振り返り		意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理	
3～4	学びの振り返り		社会性、対人関係能力	
5～6	学びの振り返り		子どもやその家庭の理解 職員間の連携、関係機関との連携	
7～8	学びの振り返り		保育や子育て家庭に対する支援の展開	
9～12	課題検討		保育・教育に関する課題の検討	
13～16	自己課題		各自の習得した知識・技術等と保育・教育に関する課題等から、自己課題の把握	
教科書・教材			評価基準	評価率
保育・教職実践演習			総合評価	100.0%
				【採点内訳】 授業態度30% グループワーク50% 発表20%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
こども学概論		こども保育学科／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	元木 倫子
授 業 の 概 要				
子どもの育つ力と発達、子どもと父親・母親・家族、子どもの育つ環境としての地域、こども園、保育所、幼稚園の役割など子どもを取り巻く環境について総合的な視野を持つことの大切さを理解する。				
授業終了時の到達目標				
子どもの成長と発達の概要を知り現状と課題を理解する。 また、父親・母親の役割、地域の人々の役割などについて、課題を発見し、問題点を調べ、どのようなあり方がよいかについて考察する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
テキストに目を通し、ノート等を用意する。 子どもの年齢発達に応じた絵本を持参する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション・こども学とは	科目・授業説明、こども学の基本理念		
2	子どもの育つ力と発達①	発達過程における心と身体の問題		
3	子どもの育つ力と発達②	こども時代の体験世界と言語 絵本から学ぶ		
4	子どもとは①	子どもの世界		
5	子どもとは②	「体験」と「経験」をめぐって		
6	体験から子どもを学ぶ	子どもの適応能力を考える		
7	体験からしか学べないこと	見守ることの大切さ		
8	子どもに寄り添うことの意味	「甘えを受け入れること」と「甘やかすこと」		
9	子どもと家族	親の気持ちと子どもの気持ち		
10	子どもの生活を現場で体験（保育園）	保育園に出向き現場で体験することで発達の的にとらえる目を養う		
11	子どもの生活現場で体験（幼稚園）	幼稚園に出向き現場で年齢の発達の違いを体験する		
12	子どもの育ちと地域社会	園・家庭・地域社会の連携の大切さ		
13	親子の特別なニーズに答える	家庭教育学級の参加		
14	子どもを育む仕事	保育者として直面している子どもの問題にどう向き合うべきなのか 保育者の道を目指す心得		
15	まとめ・試験対策	全体のまとめ、期末試験対策		

回	テ ー マ	内 容		
16				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
こども学概論		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度と提出物：30% テスト：70%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神保健		こども保育学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	高林佑季
授 業 の 概 要				
幼児にとって精神的健康の保持は身体的健康と同じ程度に重要なことである。そこで、精神の概念・動向・現代社会における意義と役割、精神障害の基礎知識、ライフステージ精神保健活動、精神保健福祉行政の仕組みと関連法規を学習し、社会福祉に携わる者にとっての精神保健の考え方について知る。				
授業終了時の到達目標				
子どもだけの問題として捉えるのではなく、養育者・地域といった様々な対象を把握し、包括的・総合的に精神保健をめぐる支援を行う際に、保育者に必要となる技術、視点、知識を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	病院にて援助業務経て 現場経験を活かして援助技術の方法等を事例を通して授業を行う。			
時間外に必要な学修				
青年期における精神疾患について調べる				
回	テ ー マ		内 容	
1	保育者と精神保健		精神保健とは何か 心が健康であることとは	
2	"		精神保健活動を行う保育者に求められること	
3	精神保健の歩み		欧米における精神保健の歩み	
4	"		わが国における精神保健の歩み	
5	心の健康に影響を与える		家族関係と心の健康 社会のあり方と心の健康	
6	"		教育・保育と心の健康	
7	"		栄養と心の健康	
8	子どもの身体発育と精神保健		成長と発達 運動発達と精神保健	
9	"		精神発達と養育環境	
10	"		社会性の発達	
11	現代の子どもを取り巻く精神保健上の課題		発達障害の問題	
12	"		児童虐待（不適切な養育）	
13	子どもをめぐる地域の精神保健活動		医療と保育の連携	
14	"		保健師の行う地域保健活動との連携	
15	"		児童福祉施設における心のケア	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ　　マ	内　　　　容		
よく分かる精神保健		総合評価	100.0%	【採点内容】 60% 試験 20% 提出物 20% 授業態度

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
青年心理学		こども保育学科／2年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	高林佑季
授 業 の 概 要				
青年期の発達の特徴、身体発達、知的発達、自己形成、人間関係の発達、社会的発達、青年と文化、青年期の精神病理現象、青年期への心理的援助等について学ぶ。青年期の発達課題について学び、誕生から青年期に至るまでの発達の連続性を見通して保育を行うことができるための知識を学習する。				
授業終了時の到達目標				
青年期の発達の特徴、身体発達、知的発達、自己形成、人間関係の発達、社会的発達、青年と文化、青年期の精神病理現象、青年期への心理的援助について理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
青年期における悩みについて調べる。				
回	テ ー マ	内 容		
1～2	青年期と青年心理学	青年期とは エリクソンの発達理論		
3	青年期の思考と感情	思考、自尊感情、価値観などについて		
4～5	身体とジェンダー	ジェンダー、恋愛などについて		
6	自己とアイデンティティ	アイデンティティの確立について		
7～8	家族と友人	親子関係、友人関係について		
9～10	学校と学習	学校における人間関係や意欲などについて		
11～12	進路と就職	学校から職場への移行や職業観について		
13	社会	文化、流行、居場所などについて		
14	障がい	不登校、いじめ、摂食障害など		
15～16	大人になるとは	結婚、親、世代間関係について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【採点内訳】 試験 60% 提出物 20% 授業態度 20%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
こどもと文学		こども保育学科／2年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	元木 倫子
授 業 の 概 要				
情操教育を考える上で、文学は必要不可欠なものである。また、美しい日本語に触れることは言語の発達に大きな影響を及ぼすものである。そこで年齢に合った絵本の選定方法や、読み聞かせの技術の習得を目指し、よりよい文学の環境設定ができるよう学びを深めていく。最後に子どもの年齢を設定し、絵本を選びそれに繋がるおもちゃ作りを制作し発表する。				
授業終了時の到達目標				
児童文学の本質及び目的が理解できる。 児童文学の形成について理解し、具体的な事例を挙げることができる。 児童文学の歴史について、時代を区切って概観することができる。 幼児教育に必要な絵本・お話を具体的な実践例を挙げて説明することができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
日本の昔話と外国の昔話を読む。				
回	テ ー マ	内 容		
1～2	児童文学とは	児童文学とは何か。児童文学の歴史の変遷。		
3～4	児童文学の種類	絵本、紙芝居、おはなし（特性、種類、必要性、選び方、読み聞かせの方法など）		
5	〃	童話（特性、種類など）		
6～8	〃	グループワーク（アンデルセン、イソップ、グリム童話、日本昔ばなしについて）		
9	〃	ファンタジー、小説、童謡、詩、わらべうた		
10～11	絵本から遊びへ	絵本から関連するおもちゃ作り（わたしのワンピース）		
12～13	〃	各自で子どもの年齢を設定し、絵本を選びそれに繋がるおもちゃ作りを制作。		
14～15	発表	各自で製作したものを発表。		
16				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		総合評価	100.0%	【採点内容】 発表 40% 製作物 40% 授業態度 20%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児の心理学		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	山北 泰子
授 業 の 概 要				
子どもたちがどのようにこの世界を理解しようとしているのか、またその理解の仕方や変化や発達について学ぶ。子どもとおとなの視点の違いを知り、子どものありのままの姿を受け止めて理解する力を養う。また、保育者としての適切な子どもへの関わり方を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
乳幼児期の子どもの発達の特徴の理解や、人間関係をどのように築いていくのかを理解し、実際の保育の中で工夫や援助ができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭1 9年勤務、副園長2年勤務、副園長、園長(所長)兼任3年勤務専門学校、短期大学非常勤講師1 7年勤務 乳幼児から学生指導の現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。			
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通し、保育の中でのいろいろな事例を想定しながら疑問点や課題を、授業の中でグループ討議する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	○幼児の心理学の意味		・ 保育と心理学 ・ 心理学の方法と発達検査	
2	○子どもの発達Ⅰ		・ 愛着と形成の重要性 ・ 人間関係の始まりと人との関わり	
3	○子どもの発達Ⅱ ○遊びと子どもの発達		・ 言語機能の発達と認知の発達 ・ 遊びは幼児期にとってどんな意味があるのか 遊びとはなににか	
4	○学習行動の基礎		・ 行動主義と認知主義からの学習とは ・ 知識の獲得と学習 学習の動機づけ	
5	○知的能力の発達 ○パーソナリティの発達の理解		・ 知能の定義と発達、測定 ・ 遺伝と環境について	
6	○教育、保育における評価とは		・ どのように評価するのか ・ 何のための評価なのか ※事例からの考察	
7	○発達障害のある子どもの教育、保育を考える ○家庭ぐるみの教育的支援		・ 発達害の特徴と対応 ・ 保育者のカウンセリングマインドの効果	
8	○就学に向けて ○子どもをめぐる教育的問題と今後の課題		・ 修学に向けての取り組みと小学校との連携と関係 ・ 不登校、児童虐待の状況把握と対応	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 保育に生かす教育心理学 ・ 心の育ちと対話する保育の本(学研) ・ 自作プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・ 授業態度 20% ・ レポート 20% ・ 試験 60%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康Ⅱ		こども保育学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	元木倫子
授 業 の 概 要				
子どもの運動発達の順次制性や興味・欲求を理解する。その上で、明確な意図を持った保育計画を設定を考察できる力を養う。 指導案を作成、学園内の保育所にて発表を行う。				
授業終了時の到達目標				
保育の中での運動遊びの重要性を知り「やってみたい」「楽しい」「続けたい」と言う欲求につなげていける体育指導を目指す。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園・保育所にて体育指導25年経験 障害児の体操指導3年 体育指導経験を活かし発達段階に沿った運動遊びの指導方法を伝える。		
時間外に必要な学修				
テキストに目を通しておく				
回	テ ー マ		内 容	
1	年齢に応じた遊びを考える		グループに分かれ遊びを考える	
2	グループでのディスカッション		グループでの運動遊びの内容の発表	
3～4	グループ活動		運動遊びの指導計画と製作	
5	クラス全員でのリハーサル		クリスマス会の流れを通して行う	
6	リハーサル後の手直しと通し		各グループに分かれ最終確認	
7～8	運動あそびの発表		あなかれほいくえんの子どもたちとクリスマス会を行う	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育の中の運動あそび		総合評価	100.0%	評価内訳 授業態度：60% 提出物：20% 発表：20%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
音楽表現（指導法）		こども保育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	澤井 歩
授 業 の 概 要				
幼児教育における音楽表現の基礎知識を習得する。保育活動における音楽の役割を理解し、子どもの音楽表現活動に関する知識及び、指導、援助に関する知識・技能を学習する。				
授業終了時の到達目標				
童謡の弾き語り（春・夏の曲 年少、年中） 音楽理論（音符、用語、コード） リトミック、リズム打ち、合奏（楽譜の見方、演奏）				
実務経験有無		実務経験内容		
有	モンゴルの小・中学校の音楽教師 盲学校音楽教師 高校音楽教師			
時間外に必要な学修				
弾き語りで発表する曲の練習 合奏のパート練習				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	童謡合唱（年少、年中）行事及び春夏の曲 理論 リズム打ち（4/4拍子、3/4拍子、2/4拍子） リトミック 合奏（年少、年中）		発声を意識し、音程正しく、歌詞は覚える 音符・記号・演奏順序・和音 声を出して、リズム打ち 曲にあわせて、動作を変えて 楽譜に慣れ、パートを決め練習する なるべく弾き語りできるように練習する	
5～8	童謡合唱（年少、年中） 理論 コードを弾く、音階を弾く リズム打ち リトミック 合奏 童謡弾き語り		固定ドで歌う 前回の復習、コードについて、音階 ハ長調、ヘ長調、ト長調 全体練習 発表	
教科書・教材			評価基準	評価率
適宜配布 ピアノ伴奏 保育のうた12ヶ月 やさしい楽しい器楽合奏集 リトミック百科 ピアノ曲集			総合評価	100.0%
				【評価内訳】 童謡弾き語り、合奏 60% 授業態度 40%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
劇あそび（指導法）		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	山北 泰子
授 業 の 概 要				
領域「表現」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊び（ごっこ、劇あそび）の内容と意義について学習する。伴う表現活動（歌う、演奏する、踊るなど）の演習課題を通し、感じたり、考えたり、想像したり、創造する力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・ 領域「表現」の「ねらい」「内容」について理解する。 ・ 子どもの発達に即したあそびの過程を理解し、どのような援助が必要か考えることができる。 ・ 子どもの狂言を育てうる実践力と指導法を身に付ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として1 9年勤務、副園長2年、副園長、園長（所長）兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師1 7年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
「表現」の領域に関する教育。保育のねらい及び内容の理解				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	○「表現」の領域に関する教育。保のねらい及び内容の理解 ○保育における劇遊びの必要性 ○表現することを楽しむための援助		・ 子ども達の何を育てたいのか ・ ねらいや内容は何か ・ 表現の視点から劇遊びを考える ※発達段階を踏まえて ①ごっこ遊びから劇遊びへ ②役で表現する楽しさ ③メージや表現の場を共有して創る楽しさ ④観られることへの意識 ⑤お互い評価することの経験	
5～8	○劇遊びのポイント ○余裕を持った計画とは ○子どもが主体 ○表現遊び ○発表・鑑賞		・ 子ども達の何を育てたいのかねらいの明確化 ・ 役になりきって楽しむために ・ 自分なりにセリフや動きを考えるために ・ 友達と一緒に劇を作り上げるために ・ 子どもの希望やねらいが達成されているか ・ 個々の活躍の場とは ・ 主体的な取り組みになっているか ・ 個々の表現に対してきちんと言葉で伝えることの重要性 とは ○グループごとに表現遊び発表・鑑賞 ・ 反省、課題、まとめ	
教科書・教材		評価基準		評価率
・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針 ・ 幼保連携認定こども園教育・保育要領 ・ 参考資料配布 ・ たのしい劇遊び		総合評価		100.0%
				【採点内訳】 ・ 授業態度、意欲 60% ・ 実技と発表 40%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と人間関係		こども保育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	佐藤 洋美
授 業 の 概 要				
乳幼児期の発達と領域「人間関係」を理解する。子どもと保育者の関わり、遊びの中の人との関わり、生活を通して育つ人との関わりを学ぶ。 個と集団の中での育ちについて考察し、親しい人との体験が生きる原動力となり、子ども一人ひとりの成長を促していることを理解する。				
授業終了時の到達目標				
5領域「人間関係」について理解する。 人間関係の構築について理解し、人間関係を育むための援助と工夫を考える。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園・保育所28年勤務 副所長4年 所長8年			
時間外に必要な学修				
周りの人とのコミュニケーションを振り返る。（日ごろから）				
回	テ ー マ		内 容	
1	人間関係		私たちの人間関係について	
2				
3	5 領域「人間関係」		保育の基本と領域「人間関係」	
4	社会状況		子どもを取り巻く社会の状況	
5	5 領域		領域「人間関係」の「ねらい及び内容」の取り扱い	
6	0～5歳児		0～5歳児における 人との関わりの発達と保育者の援助	
7	愛着		愛着形成について	
8	コミュニケーション能力		子どもを取り巻く人間関係	
教科書・教材		評価基準		評価率
幼児と人間関係		総合評価		100.0%
				【採点内訳】 課題 10% 試験 60% 授業態度 30%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と環境		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	佐藤 洋美
授 業 の 概 要				
乳幼児期の発達と領域「環境」を理解する。子どもを取り巻く環境の変化を理解し、子どもの発達と環境の関係性について学ぶ。子どもたちが、周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うために保育者がどのような関わり、環境を構成する必要があるのかを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
乳幼児期の発達と領域「環境」を理解する。 子どもを取り巻く環境の変化を理解する。 子どもの発達と環境の関係性について理解し、保育者の関わりや環境構成の工夫について理解を深める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育所にて勤務 保育士28年、副所長4年、所長8年		
時間外に必要な学修				
人的環境の保育者は、子どもたちにどんな影響を与えるのかを考える。				
回	テ ー マ		内 容	
1	保育内容と領域「環境」		領域「環境」とは	
2	子どもの環境と関わる力		子どもの発達理解	
3～ 4	領域「環境」と保育方法		子どもにとっての環境について 保育者の役割について	
5～ 6	領域「環境」と保育の実際		子どもの心をつかむ保育の実際	
7～ 8	領域「環境」と実践上の留意点		実体験の意味と大切さについて 環境の工夫について	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
こどもと環境 その他 資料適宜配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト50% 授業態度 40% 提出物 10%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
音楽表現技術		こども保育学科／2年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	澤井 歩
授 業 の 概 要				
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを音楽を通して豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
童謡の弾き語り（年少、年中、年長、春夏秋冬） 音楽理論 リズム打ち 合奏				
実務経験有無		実務経験内容		
有	モンゴルの小・中学校の音楽教師 盲学校音楽教師 高校音楽教師			
時間外に必要な学修				
弾き語りで発表する曲の練習 合奏のパート練習				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	童謡合唱 理論 リズム打ち リトミック 合奏（グループ事に曲を決める） 弾き語り練習		アカペラで音程正しく、歌詞は覚えて歌う 復習 前に立ち、先生の役をする 先生の役をしてピアノを弾く（弾ける学生） パートを決め、音、リズムを考える	
5～8	グループに分かれ合奏の練習 発表する 弾き語り（季節事に選び4曲練習）		できればパート楽譜を作る 発表 時間に余裕があれば4曲発表 無理な場合、指定された曲を発表	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ピアノ伴奏 保育のうた12ヶ月 やさしい楽しい器楽合奏集 リトミック百科 ピアノ曲集		総合評価	100.0%	【採点内訳】 合奏 30% 弾き語り 30% 授業態度 40%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習Ⅱ（保育所）		こども保育学科／2年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	選択	松村 雅史
授 業 の 概 要				
保育実習Ⅰでの経験とその後の学習をふまえて、自己課題をもち保育所の保育を実際に経験する。この実践を通して、生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を育成する。また、保育所の保育士に求められる資質・能力・技術を修得し、さらに自己課題を明確化していく。				
授業終了時の到達目標				
保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取組み、理解を深める。 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 保育士としての自己の課題を明確化する。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～45	保育所の役割や機能の具体的展開 観察に基づく保育理解 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価保育士の業務と職業倫理 自己の課題の明確化	養護と教育が一体となって行われる保育 保育所の社会的役割と責任 子どもの心身の状態や活動の観察 保育士等の動きや実践の観察 保育所の生活の流れや展開の把握 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 地域社会との連携 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の理解 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 多様な保育の展開と保育士の業務 多様な保育の展開と保育士の職業倫理		
	観察実習 参加実習 部分・責任実習 研究保育	発達に適した保育の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針		総合評価	100.0%	【採点方法】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採

回	テ ー マ	内 容	
			考慮したうえで採点を行う。 ※実習を行わない学生に限り、校長の許可の元「保育演習」に置き換えることができる。 （ただし、保育士の資格取得はできない）

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習Ⅲ（施設）		こども保育学科／2年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	選択	松村 雅史
授 業 の 概 要				
これまで学習してきた理論を基礎として、福祉施設において生きた養護を学び、人間性豊かな保育士を育成する。保育所以外の児童福祉施設などの役割や機能について実践を通して理解を深める。また、これらの実践の中で家庭と地域の役割などに気付き、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。				
授業終了時の到達目標				
児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援の知識、技術、判断力を養う。 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 保育士としての自己の課題を明確化する。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
実習中には、利用者理解を務める。 障害や児童の発達状況を理解する。				
回	テ ー マ	内 容		
1～45	施設実習	児童福祉施設等の役割と機能 施設における支援の実際 ・受容、共感の態度 ・個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 ・個別支援計画の作成と実践 ・子どもの家族への支援と対応 ・多様な専門職との連携 ・地域社会との連携 保育士の多様な業務と職業倫理 保育士としての自己課題の明確化		
	観察実習 参加実習	発達に適した保育・支援の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当指導者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		総合評価	100.0%	【採点方法】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行う。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅱ		こども保育学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	選択	松村 雅史
授 業 の 概 要				
保育実習指導Ⅱでは、事前指導として、保育実習指導Ⅰ・保育実習Ⅰ（保育所実習）、またその他の教科で学習した内容を基盤に保育実習Ⅱに向けた準備を行う。具体的には保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。さらに、指導計画書の作成や記録など保育の実践力を養うことを目的とする。また、事後の振り返りを行い、課題を明確にする。				
授業終了時の到達目標				
保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を習得する。 保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
実習で使える教材づくり				
回	テ ー マ		内 容	
1～8	保育実習による総合的な学び		子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育と保護者支援について	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針		総合評価	100.0%	【採点内訳】 事前授業態度50% 事後授業態度50%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅲ		こども保育学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	選択	松村 雅史
授 業 の 概 要				
保育実習指導では、事前指導として、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（施設実習）、またその他の教科で学習した内容を基盤に保育実習Ⅲに向けた準備を行う。具体的には、子どもの最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解、また家庭支援など保育と支援の実践力を養うことを目的とする。また、事後の振り返りを行い、自己の課題を明確化する。				
授業終了時の到達目標				
保育実習の意義と目的を理解し、施設について総合的に学ぶ。 実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育・支援の実践力を修得する。 保育・支援の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育・支援の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育・支援に対する課題や認識を明確化する。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
実習施設の研究とともに指導案作成や教材準備 実習先のパンフレット、HPなどを熟読する。				
回	テ ー マ		内 容	
1～8	保育実習による総合的な学び		子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育（利用者の支援）と保護者支援について	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド		総合評価	100.0%	【採点内訳】 課題・提出物50% 事後の振り返りと発表50%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育方法論		こども保育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	木曾 真理絵
授 業 の 概 要				
保育や教育に関する様々なトピックを検討することを通して、保育者という職務のあり方の本質的な理解を深めること、そして、今日必要とされる保育者像についての考察を深める。そのような中で、保育者としての役割や制度の検討を通して専門職に関する造詣を深める。				
授業終了時の到達目標				
教育方法の歴史的変遷を理解する。 現代の教育方法について理解する。 幼児教育の教育方法について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭として幼稚園に10年勤務 保育現場における保育形態のいろいろについて伝える。			
時間外に必要な学修				
保育の方法が及ぼす子どもへの影響				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	環境を通して行う教育について		方法としての「環境を通して行う教育」	
3	環境に通して行う教育について レポート作成		レポート作成指導及び各自レポート作成	
4	幼児教育・保育における遊び		遊びとは	
5	幼児教育・保育における遊びについて レポート作成		レポート作成指導及び各自レポート作成	
6	近大科目終末試験に向けて 1・2		「子どもたちのための庭」と「子どもたちにとっての庭」について 幼児期の見立て遊びの重要性	
7	近大科目終末試験に向けて 3・4		子どもが育む社会性とは 「主体的・対話的で深い学び」について	
8	近大科目終末試験に向けて 5・6		保育を記録することの意義について 幼稚園教育要領における「遊び」とは	
9	近大科目終末試験に向けて 7		幼児教育におけるICT機器の活用について 子どもの育ちと物的環境	
10	幼児理解 幼児教育・保育における計画と評価		幼児理解に基づいた評価について	
11	保育は		「見える保育」と「見えない保育」 子どもの主体性と保育者の意図	
12	保育方法としての保育形態		自由保育 一斉・設定保育 統合保育 異年齢児保育	
13				
14	DVD		日本の保育現場の実際	
15	まとめ			

回	テ ー マ	内 容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	教育方法論	総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度 20% レポート提出 20% 確認テスト 60%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育相談		こども保育学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	東原 義明
授 業 の 概 要				
教育場面における相談援助の意義について学び、具体的な手法について知る。				
授業終了時の到達目標				
教育相談を行うにあたって基本となる心理学や支援に必要な「カウンセリングマインド」「アセスメント方法」について学ぶ				
実務経験有無		実務経験内容		
有	相談員やカウンセラーとして15年			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	教育相談とは	保護者の心を支える子育て支援の必要性和心の支援に必要なことを学ぶ		
2	心理療法	各心理療法についての概要について学ぶ		
3	カウンセリング技法	保育者の専門性としてのカウンセリングスキルについて学ぶ		
4	心理療法における技法	さまざまな療法について		
5	保護者とのかかわり方	保護者との接点と保護者との話し方について学ぶ		
6	養育困難を抱える保護者支援	虐待の定義と養育困難に陥りやすい保護者への支援について学ぶ		
7	発達に課題のあるこども支援	発達障害について学び、子ども支援について考える		
8	障害のある子どもを持つ保護者支援	障害のある子どもを持つ保護者への支援のポイントをつかむ		
9	精神疾患と保護者支援	精神疾患の概要と精神疾患を持つ保護者への支援方法について学ぶ		
10	子育て支援とSGE	保護者会における構成的エンカウンターグループの活用について学ぶ		
11	事例検討	登園しぶり事例		
12	事例検討	いじめ事例		
13	事例検討	発達に課題のある子ども支援についてロールプレイ		
14	事例検討	虐待事例		
15	振り返りと確認テスト	振り返りと確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ　　マ	内　　　　容		
	子育てカウンセリング	総合評価	100.0%	【採点内訳】 レポート20% 試験80%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育実習事前事後指導Ⅰ		こども保育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	山北泰、松村雅
授 業 の 概 要				
幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が円滑かつ有意義に行われるよう、以下のような教育実習にかかわる基礎的な知識の理解を深めていく。 ・ 幼児の発達段階 ・ 幼稚園の機能と役割 ・ 幼稚園教諭の職おと役割 ・ 指導計画立案の方法				
授業終了時の到達目標				
・ 教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。 ・ 観察記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長（所長）兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
実習で実施する手あそびや歌、ゲーム等レパートリーを増やす幼児教育の現状の把握や課題と等、新聞などからの情報確認				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	教育実習の意義		実習の必要性や姿勢と心得について	
	幼稚園の機能と役割、法的根拠、幼稚園教諭を取り巻く環境		保育と教育の違いについて 幼稚園教諭の職務と守秘義務	
	幼稚園教諭の職務と役割		発達の目安と保育のポイント 家庭との連携の必要性	
5～8	各実習の内容理解		見学実習、観察実習、参加実習、一日実習、部分実習、研究保育について	
	日誌の記録の仕方の理解		日誌の記録方法	
	指導計画の作成方法		子どもの姿が反映された記録の取り方	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針 ・ 幼保連携認定こども園教育・保育要領 ・ 参考資料配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業への積極的参加度 20% 発言、演習、グループ協議への参加 20% レポート 60%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育実習事前事後指導Ⅱ		こども保育学科／2年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
教育実習の事前・事後指導として、幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解したり、各科目で習得した知識や技能と教育実践とを具体的に統合することにより教育実習に対する意欲や課題意識を高めることをねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
実習に向けての幼稚園理解と教材づくり。 実習生としての心構えもつ。 指導案の作成理解。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
幼稚園で役に立つ教材づくり。（年齢に応じた）				
回	テ ー マ		内 容	
1	教育実習とは		幼稚園教育の特質	
2	"		幼稚園教諭の資質	
3	意義と目的		教育実習の意義及び目的・目標・制度	
4	心構え		実習生として気をつけること	
5～8	実習事後の振り返り		実習事後の振り返りと自己評価 今後の課題	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教育実習事前事後指導		総合評価	100.0%	【採点内訳】 事前授業態度50% 事後授業態度50%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育実習Ⅰ		こども保育学科／2年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
これまで学習してきた理論を基礎として、教育現場において生きた教育技術を学び、人間性豊かな教師を育成する。 ・ 幼稚園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・ 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して教育の理解を深める。 ・ 子どもの教育について総合的に学ぶ。 ・ 指導計画、実践、記録、省察及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 ・ 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ・ 幼稚園教諭としての自己の課題を明確化する。				
幼稚園における教育実践について専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技術を活用しながら体験的にまた総合的に認識を深め、幼児教育に係る理論と実践を統合していく。達成するために第1回の実習では、観察・参加実習を主とする実習を行うこととする。				
授業終了時の到達目標				
幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
実習で利用できる教材作成				
回	テ ー マ	内 容		
1～45	幼稚園実習	・ 幼稚園における1日の生活、活動の流れと生活、活動内容の概要を理解する。 ・ 遊び、生活場面での園児の行動理解 園児の行動に対する幼稚園教諭の対応		
		保育実践やその後の考察の中で、自己課題を明確にする。 幼稚園教諭としての仕事を具体的に学ぶ。 職員間の役割分担とチームワークの必要性を理解する。 安全及び、疾病予防への配慮を理解する。		
		発達に適した保育の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当教諭の指導や助言に従い、積極的に教育実習に参加する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト（近大）		総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮した上で採点

回	テ ー マ	内	容
			考慮した上で採点を行う。 ※実習に行かない学生に限り、校長の許可の元「保育演習」に置き換えることができる。 (2回の教育実習を終えていない学生は、幼稚園教諭2種免許を取得することができない)

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育実習Ⅱ		こども保育学科／2年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
これまで学習してきた理論を基礎として、教育現場において生きた教育技術を学び、人間性豊かな教師を育成する。 ・ 幼稚園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・ 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して教育の理解を深める。 ・ 子どもの教育について総合的に学ぶ。 ・ 指導計画、実践、記録、省察及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 ・ 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理を明確化する。 幼稚園における教育実践について専門教育科目を獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的にまた総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していく。達成するために第2回実習では、部分・研究保育を主とする実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。 部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。 自己課題の明確化。				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
実習先の子どもたちに沿った遊びを考え、どんな流れで保育を提供するのかを考える。 また、保育現場での必要な教材を作る。				
回	テ ー マ		内 容	
1～45	幼稚園実習		1回目の実習を基礎と、専門教育科目で学習したあらゆる知識、技術を統合しながら以下の内容を獲得していく。 ・ 幼稚園における1日の生活、活動の流れと生活、活動内容の概要を理解する。 ・ 遊び、生活場面での園児の行動理解 ・ 園児の行動に対する幼稚園教諭の対応 ・ 部分実習、全日実習、研究保育の指導計画の作成及び指導 ・ 幼稚園教諭としての保育技術の習得および態度の養成 ・ 幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解	
	観察実習 参加実習 部分・責任実習 全日実習 研究保育		保育実践やその後の考察の中で、自己課題を明確にする。 幼稚園教諭としての仕事を具体的に学ぶ。 職員間の役割分担とチームワークの必要性を理解する。 安全及び疾病予防への配慮を理解する。 発達に適した保育の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める。 担当教諭の指導や助言に従い、積極的に教育実習に参加する。	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼稚園教育要領		総合評価	100.0%	【採点方法】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採

回	テ ー マ	内	容
			考慮したうえで採点を行う。 ※実習に行かない学生に限り、校長の許可の元「保育演習」に置き換えることができる。 (2回の教育実習を終えていない学生は、幼稚園教諭2種免許を取得することができない)

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育演習Ⅰ		こども保育学科／1年	2025／通年	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	濱崎 永美子
授 業 の 概 要				
特にピアノを基礎に童謡や手遊びなどの保育技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
楽譜が読め、両手で演奏できるようになる。 練習を通して保育技術を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		小学校勤務3年 専門学校3年 自宅にて、ピアノ講師		
時間外に必要な学修				
授業外でも練習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1～7	ピアノ・童謡・手遊び・楽典		保育現場に必要な音楽の保育技術を個人指導	
8	確認テスト		各自課題曲 確認テスト	
9～15	ピアノ・童謡・手遊び・楽典		保育現場に必要な音楽の保育技術を個人指導	
16	確認テスト		各自課題曲 確認テスト	
教科書・教材			評価基準	評価率
適宜プリント配布 手遊び百科 ピアノ伴奏保育のうた12か月 近大音楽テキスト2冊 おんがくのしくみ			総合評価	100.0%
				【採点内訳】 確認テスト 60% 平常点 40%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育演習Ⅱ		こども保育学科／2年	2025／通年	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	濱崎永美子
授 業 の 概 要				
保育現場で生かせる保育者としての専門的な技術（パネルシアター・ペープサート・紙芝居・ゲーム等）を習得する。また、近隣の保育園や幼稚園にて実践な保育を経験し、保育者としての技術のみならず子どもへの言葉かけや立ち居振る舞いなどを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
授業を受ける中で、自分の保育技術のスキルを上げる。また。教材を作るだけでなく 何度も練習を重ね自分のものにする。現場での保育者の立ち居振る舞いや、言葉遣いを学ぶ。子どものひきつけ方を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	小学校勤務3年 専門学校3年 自宅にて、ピアノ講師			
時間外に必要な学修				
授業中に学んだ手遊び、歌遊び、リトミック、ダンスなどを家でも練習し、自分の保育に活用できるようにする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	保育演習Ⅱ	保育演習で学ぶ保育実践技術について		
2～ 15	保育技術と実践	保育現場で役に立つ 教材づくり、保育技術のマスター、グループで行う保育指導計画作成、事前準備、練習等を含め、現場で役に立つ実践的な技術を学ぶ。 ピアノも含む		
16				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業に臨む姿勢 60% 提出物・発表 40%

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
卒業研究		こども保育学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	松村 雅史
授 業 の 概 要				
今まで経験した実習先で感じ、こどもに学んで欲しいこと、興味を持ってほしい内容を考え、各自オリジナルのエプロンシアターを作成し、後輩の前で発表する。				
授業終了時の到達目標				
保育実習と教育実習を振り返り、子どもたちに何を伝えたいのかを考え、オリジナルエプロンシアターを作成。 こどもが喜ぶポイントを自分なりに工夫して作成する。 人前にでて、伝えることの難しさを体験する中で、今後の課題を見つけ出す。				
実務経験有無	実務経験内容			
無				
時間外に必要な学修				
エプロンシアターの専門書やインターネットを使って、子どもが喜ぶ工夫ポイントを自分なりに研究する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	保育所と幼稚園の振り返り	実習で出会った子ども足りを振り返る		
2	ねらい	子どもたちに何を伝えたいのかな？		
3～4	エプロンシアター	子どもにとってエプロンシアターとは？ 作り方から演じ方		
5	脚本づくり	脚本作りと場面構成		
6～10	制作開始	制作開始		
11～12	練習	練習と修正・改善 グループワーク		
13～15	発表	発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 取り組む姿勢（平常点）50% 発表30% レジメ提出 20%